

様式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成27年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 補助事業期間 平成27年度～平成29年度

5. 課題番号

1	5	K	1	6	0	9	8
---	---	---	---	---	---	---	---

6. 研究課題名 「語り」の蓄積からコミュニティの物語を出力する地域デジタルアーカイブの構築と運用

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
9 0 5 7 5 5 4 9	マツモト サヤカ 松本 早野香	社会情報学部	講師

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

本研究は、東日本大震災からの復興記録として、地域コミュニティに属する人の「語り」に着目した新しいタイプの地域アーカイブを構築することにより、地域における情報技術の活用新しいモデルを提案することをめざす。

対象となる地域は可住面積の6割が東日本大震災の津波被害を受けた宮城県亘理郡山元町である。この町では東日本大震災発生10日後から放送を開始し、申請日現在まで放送を継続している臨時災害放送局「りんごラジオ」がある。りんごラジオのコンセプトは「いい町には声がある」「山元町100%」、すなわち町民が町民に向けて話すというものである。出演者は公人にかぎらず、幼稚園児から高齢者まで、ほとんどあらゆる町民を対象とする。いわば「語り」を重視した地域メディアであるといえる。

地域に大きく貢献してきたりんごラジオであるが、放送のみならず、過去の放送についての記録も地域に大きな役割を果たしう。しかしながら災害臨時放送局の持つデータは現状ではそのような機能を有さず、デジタル化されていないものも含め、連結されず独立して存在している。また、地理的情報や写真、町の歴史、写真など、関連する情報はラジオ局の外に存在している。そこで本研究では、人々の語りのデータを中心として関連する情報が登録され、閲覧者の性質や目的に応じてデータが抽出され並び替えられて表示されるアーカイブシステムを構築することを目的とする。

研究初年度である平成27年度には、放送局が有する記録の把握・デジタルアーカイブの基礎となるデータの決定と収集・記録を残すことに関する町民の思いを聞くためのインタビュー等を実施した。